くん　ぶう
薫風　7月号
R８年度

学校教育目標
「心豊かに　共に伸びゆく生徒」
― 時を守り　場を清め　礼を正す ―
発行：八條中学校 Tel936-2121
さわやか相談室 Tel935-6728
http://www.yashio-hachijo-jh.ed.jp/

心をあわせる

校長　金塚 和美

４日の音楽祭がいよいよ今週に迫ってきました。これまで練習を重ねてきた子どもたちの歌声や楽器の音は、７月を迎え、いっそう熱を帯びて校内に響き渡っています。仲間とともに一つの作品をつくり上げようとするその真剣な音色は、学校全体を明るい活気で包み込んでいます。

合唱や合奏の練習を見ていると、子どもたちが互いの声を聴き合いながら、少しずつ全体の響きを整えていく様子がよく伝わってきます。自分の音を大切にしながらも、仲間の音を受け止め、全体の中でどう響かせるかを考える。その姿は、まさに心をあわせるということの意味を、身体を通して学んでいるかのようです。音楽とは、ただ音をそろえるだけでなく、互いの存在を認め合いながら一つの響きをつくる営みなのです。合唱では、自分の声が仲間の声と重なり合い、豊かな響きとなって返ってきます。合奏では、自分の奏でる音が全体の流れを支え、曲の一部として生き生きと輝きます。子どもたちはその瞬間、自分の役割が確かに音楽の中で生きていることを実感します。仲間とともに音を重ねる経験は、自分が全体を支えているという手応えとなり、子どもたちの心に静かな自信を育てていくのです。言葉ではうまく伝えられない思いも、音に乗せることで自然と共有されます。練習のなかで、うまくいかないところを仲間と相談し合い、少しずつ乗り越えていく姿からは、音楽が子どもたちの心をつなぎ、支え合う関係を育てていることを実感させられます。実は、クラス全員で声を合わせる合唱という経験は、中学校までしか味わえない特別な学びでもあります。高校ではクラス合唱がない学校も多く、社会に出れば、仲間と声を合わせて歌う機会は滅多にありません。今の仲間とともに響きをつくる経験は、子どもたちにとって一生モノのかけがえのない時間であり、他者を尊重し、自分の役割を自覚する大切な土台となります。

音楽祭は、単に練習の成果を披露するだけの場ではありません。仲間と心を合わせ、一つの曲をつくり上げていくこれまでの道のりこそが、子どもたちに「自分はみんなに必要とされているんだ」という、小さくとも確かな自信を育んでくれています。当日は、子どもたちが一生懸命に紡ぎ出す豊かな音楽を、保護者の皆様とともに温かく包み込み、分かち合える時間を心から楽しみにしています。